（別紙様式１）

令 和 ５ 年 度　学 校 評 価　自 己 評 価 報 告

学校名〔　京丹後市立峰山中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】**(社会的自立につなぐ教育)** ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と学力の向上 ・「探究的な学び」を通じて課題解決能力をはぐくむ教育を推進 ・つながる力を生かした豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止	【授業改善と学力の向上】 ○学び合いを軸とする授業を展開することで、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めることができていますか？」という問いに、93%の生徒が肯定的に答えるまでになっている。 △「探究的な学び」を大切にする教育活動を推進する中で、課題解決能力のさらなる育成を目指すことが大切である。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○不登校出現率の減少を重点として取り組み、３年度 2.18%、４年度 2.88%と低い値で維持できている。 △しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組の展開が今後も重要である。	1　授業改善と学力の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを行い、「探究的な学び」を通じて課題解決能力をはぐくむ教育を推進する。 ・学び合いの中で主体性を引き出し、コミュニケーション能力やつながる力など、非認知能力の育成を意識した教育活動の展開を図る。 ・社会的自立につなぐための基礎学力の定着を全生徒に徹底する。 2　豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にする言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」と「探究的な学び」の充実を図るICTを活用した教育活動・授業改善を推進する。 ・非認知能力の育成を意識した教育活動の展開を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を実現する授業づくりについて、授業研究会を実施するとともに、月１回の教科部会を定例化し、授業実践力の向上をはかる。 ・学び合いの中で主体性を引き出し、話し合い、考えを深めることなどを通じて、コミュニケーション能力やつながる力などを高める。	○初めて峰山中学校で勤務する教員が多かった中で、目指す授業の姿を共有でき、「協働的な学び」を推進することができた。 ○3 学期より、学習指導部会の定例化（週 1 回実施）を図り、アウトプットを重視する「言語活動の充実」に向けた授業づくりについて、教科部会につなぐことができた。 △「探究的な学び」につながるような振り返りの実施に不十分さを残し、授業の振り返りの工夫やタブレットを活用した家庭学習を推進することで「個別最適な学び」の充実を図る必要がある。
	生徒指導	・子ども達の自己指導能力の育成を意識した発達支援的な関わりを重視し、問題行動の未然防止と不登校の解消に努める。 ・いじめの早期発見・早期対応・未然防止への組織的取組の展開を図る。	・学級経営への支援を軸とし、発達支援的な関わりを組織的・計画的に展開する。 ・不登校の解消と未然防止に向け、SC や SSW を含む教育相談体制を確立し、組織的な対応で支援の充実を図る。 ・いじめアンケートの確実な実施とともに早期発見に向けた二者面談を計画的に実施する。	○子ども達をつなぐ関わりの支援や「傾聴と対話」を基盤とした生徒理解を進める中で、子ども達の関係性も広がりを見せ、3 学期に入り生徒間暴力が大きく減少した。 △新規不登校が大きく増加し、5%を超える出現率となった。何とか、別室での支援を丁寧に展開することで、完全不登校に至っていない生徒がほとんどである。

	健康（体育)・安全	・保健教育と管理の徹底を図る。 ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。	・「命」や「自他の心身の健康安全」に意識が及ぶ取り組みを展開する。 ・交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。 ・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。	○日々の健康観察と感染防止対策で校内での感染を最小限に食い止め、年間延べ３学級の閉鎖に留めることができた。 △交通事故対策を年間を通じて実施してきたが、自転車での衝突事故が起きる等、強化する必要がある。
	(A) 特別支援教育	・支援の必要な生徒への理解を深め、適切に支援するための方策を研修し、実践的指導力を高める。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。	・個々の生徒の支援方策が多様化する中で、特別支援教育の研修を計画的に実施し、全ての教職員の資質・能力の向上を図る。 ・特別支援教育関係文書３点セット（アセスメントシート・個別の教育支援計画・個別の指導計画）の活用を充実させ、生徒支援を進める。	○個々の生徒のニーズに応じた支援や合理的配慮の充実等、教職員の情報共有を組織的に進め、支援の方向性を全教職員が理解することで、子ども達の安定した学校生活につながっている。 ○手話に視点を当てた活動や地域との連携を図る中で、その輪が広がりボランティアにも発展した。
	(B) 人権教育	・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。 ・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。	・教職員の言動について常に指摘し合える関係を構築し、「傾聴と対話」を大切にした、生徒がのびのびと学べる環境作りを進める。 ・「一人ひとりを大切にする」教育活動を展開するための、組織的・計画的な人権学習を実施する。	○教職員の言動について、機会ある毎に振り返り、常に生徒達を一人の人格者として認め、「傾聴と対話」を大切にした指導を心がけた結果、生徒達との良好な関係が築けている。 △人権週間・月間に限らず、社会の中で気になる人権に係る話題等、子ども達が考える機会を、組織的に展開できるような取組も大切である。
次年度に向けた改善の方向性	1　不登校傾向生徒に対して、将来の社会的・職業的自立につなぐ視点をしっかり持ち、家庭との連携を大切に支援していく。 2　多様な学びのスタイルを視野に入れながらも、子ども達をつなぐ視点を大切に、「主体的・対話的で深い学び」から「探究的な学び」につながる授業改善を図っていく。 3　家庭学習の状況に不十分さを残す中で、ICT を活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開する。			

（別紙様式１）

令 和 ５ 年 度　学 校 評 価　自 己 評 価 報 告

学校名〔　京丹後市立大宮中学校　〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
大宮学園教育目標 「自他を尊重し、**自ら学ぶ**子どもの育成」 大宮中学校重点目標 「ふるさとを愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」 ～子どもたちの「がんばろう」という気持ちを引き出し高める指導を目指す～ １　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 ２　学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 ３　健康な体と豊かな心の教育の充実 ４　信頼され、開かれた学校づくり ５　教職員の資質能力の向上 ６　大宮学園保幼小中一貫教育の推進	○授業公開や授業研究会で大宮学園作成「授業づくりの視点８」「言語活用カリキュラム」「人権教育カリキュラム」の活用など授業改善を進めた。生徒にも「授業について考えるＨＲ」などの機会を設けた結果、**生徒の「授業はわかりやすい」という肯定的な評価が高まった。** ○人権教育を基盤に生徒指導・特別活動の視点も加えながら、人権意見発表会などの取組を充実させ**「大宮中の生徒は他人の心を大切にし思いやりがある」と多くの生徒が評価**した。 ○生徒指導部会、教育相談部会を中心に、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーなどと連携し落ち着いた状況である。いじめ防止対策会議の機能強化や生徒の動きづくりなどにより**「総合的に見て良い学校・信頼できる学校」と多くの生徒・保護者が評価**している。 △キャリア教育の推進や、自ら計画を立てて学習するなど、**自主的・自発的な学習を習慣化**させ、確かな学力を確実に育成する。 △引き続き**魅力ある学校づくり**を進め、不登校の**未然防止**や自らの進路を主体的にとらえ**社会的自立を目指せるよう**、家庭と連携し支援を行う。	１　学力の定着 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善・授業研究 ・教科の指導と生徒指導の一体化を意識した実践により、**自ら学び、力がついたという実感を高める指導** ２　生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 ３　人権教育を基盤とした指導の展開 ４　特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 ５　安心・安全で信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進と大宮学園学校運営協議会との協働 ・外部関係機関との連携強化

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・小中の接続期（Ⅱ期）の指導方法の研究を通した授業改善、「言語活用カリキュラム」、「人権教育カリキュラム」等を活用した授業改善・授業研究 ・ＩＣＴの効果的な利活用 ・丹後学の研究と推進 ・自主的・自発的な学習の習慣化を目指した家庭との連携（力がついたという実感を高める）	・大宮学園保幼小中一貫教育の重点である「人権教育」と「ことばの力」の育成、特に「言語活用カリキュラム」を活用した確かな学力の育成と「人権教育カリキュラム」を活用した人権意識の醸成を指導の柱として取り組む。 ・校内研修や学園の授業研究を通して工夫・改善を進め、生徒の変容につながる継続した指導を行い、**保護者や生徒自身が力がついたと実感できるよう取り組む。** ・ＩＣＴの効果的な利活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるよう研修を行う。 ・キャリア教育の推進や、自ら計画を立てて学習するなど、**自主的・自発的な学習を習慣化させるとともに、各教科の学びが家庭でも継続するような授業づくり**を進め、確かな学力を育成する。	○保護者や生徒自身が力がついたと実感できるよう取り組むことを重視した結果「中学校で学力が上がったと思う」のアンケート項目への肯定的回答が前年度より上昇。生徒＋8.9%、保護者＋6.2%と、いずれも全アンケート項目中で最も好転した。 ○ＩＣＴの利活用等、校内研修や学園の授業研究を通しての工夫・改善、生徒の変容につながる継続した指導により「工夫した方法で理解しやすい授業」「丁寧に教えてくれる」「わかりやすい授業」の授業に関する項目で90%以上の生徒が肯定的に評価した。 △引き続き、キャリア教育の推進や、自ら計画を立てて学習するなど、自主的・自発的な学習を習慣化させるよう、自己調整力にも着目しながら取組を進める。

	生徒指導	・不登校の未然防止と早期対応、早期解決 ・組織的な生徒指導・教育相談体制の確立と連携 ・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築 ・大宮学園での連携	・引き続き**魅力ある学校づくり**を進め、不登校の**未然防止**や自らの進路を主体的にとらえ**社会的自立を目指せるよう**、家庭と連携し支援を行う。 ・毎週の生徒指導部会、教育相談部会を中心に、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーなどと連携し落ち着いた状況を基盤にしながら、いじめ防止対策会議の機能の強化や生徒の動きづくりなど、いじめ防止に取り組み、さらに「総合的に見て良い学校・信頼できる学校」という生徒・保護者の評価を高める。 ・学園人権・生徒指導・特別活動部会での連携により、効果のある指導・支援等、情報共有に努める。	○毎週の生徒指導・教育相談部会を中心にスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等との連携や、いじめ防止対策会議の機能強化、生徒の動きづくり等により「総合的に見て信頼できる学校・良い学校」と保護者93.4%、生徒92.7%が評価。また、人権教育を基盤に生徒指導・特別活動の視点も加えた取組により「他人の心を大切にし思いやりがある」と保護者91.0%、生徒94.4%が評価している。 △引き続き魅力ある学校づくりを進め、不登校の未然防止や自らの進路を主体的にとらえ社会的自立に向け支援する。 △改定生徒指導提要等の趣旨を十分に理解し、あるべき指導・支援について追及していく。
	健康（体育）・安全	・安全教育、健康教育の充実 ・部活動の推進	・薬物乱用防止教室や非行防止教室、性の学習、ネットモラル講演会、避難訓練などの機会を設け、危機意識の醸成や自らを守る行動を考えさせるとともに、**ＳＮＳの取り扱いや「大宮中学校のルール」の見直しなど、さらに生徒に考えさせる**機会を設ける。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため、部活動指導を充実させる。	○薬物乱用防止教室や非行防止教室、性の学習、ネットモラル講演会、避難訓練などの機会を設けるとともに、部活動の充実に努めた。 ○今年度も生徒と「大宮中学校のルール」の見直しを行った。 △ＳＮＳの取り扱いについては、全校同時に人権学習の一環として特設で学習の機会を設けて指導した。引き続き、知的理解にとどまることなく、人権感覚を高めることにつながるようにする必要がある。
	開かれた学校づくり	・学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）、各関係機関との協働 ・地域の教育資源の教育活動への活用	・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域支援コーディネーターと連携し、大宮学園学校運営協議会との連携、協働を一層進め、さらに地域とともにある学校・学園を目指す。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。	○「教育目標・方針はわかりやすく説明されている」94.1%、「教育方針は期待に応えるものである」91.6%、「行事や参観日等、気楽に訪問できる」90.9%と肯定的に評価を得ている。 ○大宮学園学校運営協議会やＰＴＡとの挨拶運動や地域パトロールの実施、地域人材による講話等で支援をいただいた。 △「困ったり悩んだら気軽に相談できる」の項目は73.0%（前年度比-6.8%）にとどまり、更なる連携の推進が必要である。
	危機管理	・人権尊重の視点に立った指導の展開 ・コンプライアンス遵守の徹底	・教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、教育活動を推進する。 ・**人権を大切にした指導・支援になっているか機会あるごとに振り返り**、危機意識を持った実践を継続する。 ・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底する。	○人権を大切にした指導・支援になっているか機会あるごとに振り返り、危機意識を持った実践を継続できた。 △さらに小さな変化への気づきを大切にし、生徒・保護者の思いに寄り添った指導・支援を積み上げる。
次年度に向けた改善の方向性		1　キャリア教育の推進、自主的・自発的な学習を習慣化させるよう、自己調整力にも着目しながら取組を進めるとともに、引き続き、生徒の変容につながる継続した指導により、保護者や生徒自身が力がついたと実感できるよう取り組む。 2　人権教育・ことばの力を柱に「人権教育カリキュラム」「言語活用カリキュラム」を活用し人権意識の醸成・確かな学力育成に取り組む。 3　魅力ある学校づくりを進めることにより不登校の未然防止や自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるよう支援する。 4　大宮学園学校運営協議会との連携、協働を一層進め、さらに地域とともにある学校・学園を目指す。		

（別紙様式１）

令和５年度　学校評価　自己評価報告

学校名〔　京丹後市立網野中学校　〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 １　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 ２　未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 ３　思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 ４　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○「未来を拓く学校づくり」推進事業１年次を学園として取り組むとともに、５回の授業研究会を通して授業づくり、授業改善を学校・学園で進めた。 ○生徒指導の４つの視点を生かした教育活動の推進及び他者とのつながりの重視、肯定的評価の積み上げ等により、いじめや暴力事象の未然防止や学校生活の安定を図ることができた。 △不登校の解決に向けて、チームでの取組、関係機関と連携した取組を進めたが、さらに組織的に対応する。 △特別な支援を要する生徒が増加する中、保護者との連携を深め、支援の充実を一層図る必要がある。	「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」の展開「つながろう仲間と　つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。 （１）第２期「未来を拓く学校づくり」推進事業（２年次）の研究を通した授業づくり及び授業改善 （２）豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 （３）不登校の未然防止と丁寧な支援、居場所づくり （４）特別支援教育の充実 （５）信頼される学校づくり～家庭・地域との連携強化 （６）網野学園学校運営協議会との協働

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	１　授業実践力の向上 ２　家庭学習時間の確保と家庭学習の習慣化 ３　「未来を拓く学校づくり」推進事業を通した研究推進	・言語活動を効果的に位置づけ、「主体的に学ぶ力」や「コミュニケーション能力」等の育成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。また、タブレットの利活用を進め、授業改善の手段にした実践研究を継続して積み重ねる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化及びタブレットの効果的な活用を図る。 ・学園で作成した「育てたい非認知能力」の指標に基づき、非認知能力の育成を意識した授業づくり、授業改善を推進していく。	○第２期「未来を拓く学校づくり」推進事業に係る研究実践を通して、学園として「育てたい非認知能力（指標）」を意識した教育活動の推進に努めた。 ○非認知能力の育成に視点を置いてギミックブラッシュアップシートを活用した授業づくり、授業改善に取り組めた。 △さらに日々の授業、家庭学習の中でタブレットの利活用を効果的に進める。 △研究実践を最終年としてまとめ、学校経営に生かす。
	生徒指導	１　組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ２　いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権意識の醸成 ３　不登校の未然防止と早期対応及び解決に向けた組織的な体制づくり	・いじめ対策委員会を定期開催し、実態把握と早期対応、いじめの根絶を徹底する。 ・生徒の状況把握を共有し、教育相談部会で支援の在り方について共通確認し、チームとして生徒に寄り添う指導を展開する。生徒の居場所作りを丁寧に行う。 ・生徒指導の四機能をあらゆる教育活動の中で意識し、教員・生徒相互の取組により自己肯定感や自己有用感を育む教育を展開する。（居場所づくりと絆づくり）	○生徒指導の４つの視点を意識した生徒指導を、全教育活動を通じて組織的に推進していくことに努めた。 ○生徒指導部会や教育相談部会で生徒に係る状況を共通認識し、方向性を確認し、組織的に指導支援を行った。 △早期の実態把握と対応、改善、解消に危機感を持ち、指導や支援にあたる。 △継続して生徒や家庭との信頼関係づくりを丁寧に行っていく。

	健康（体育)・安全	1　体力の向上 2　安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成 3　健康教育の充実 4　部活動の推進	・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。 ・新型コロナ等の感染防止に努め、安全・安心な環境づくりを進める。 ・部活動を通して、異年齢集団での共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させる。	○学期に１回、ねらいを明確にした避難訓練を実施し、生徒、教職員の安全に対する意識の高揚を図った。 ○感染症を注視しながら、安全・安心な環境づくりを進めた。 ○非認知能力の育成について部活動でも意識して指導や支援を行うことができた。 △さまざまことを想定した実効性のある避難訓練等を実施し、さらに命を守る意識と危機回避能力の育成を図る。
	特別支援教育	1　校内支援体制の機能化 2　個々の生徒や保護者のニーズの把握と支援の充実 3　個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善	・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図る。 ・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り、関係機関と連携した支援の継続に努める。 ・通常学級に在籍する支援を要する生徒も含め生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。	○生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を得ながら指導や支援を継続することができた。 ○通常学級に在籍する生徒も含め、支援を要する生徒の実態について共通認識し、指導や支援の充実に努めた。 ○医療機関、支援学校、行政機関との連携を継続してとり、指導や支援につなげた。 △さらに関係機関との連携を進め、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。
	開かれた学校づくり	1　信頼される学校づくりの推進 2　地域の教育資源の活用 3　各関係機関との連携と協働 4　学園学校運営協議会との協働	・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・たより、ＨＰ等を活用して情報発信に努め、積極的に生徒の頑張りや学校の様子を伝え、地域との連携を深める。 ・各関係機関との連携を強め、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 ・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、ＰＴＡとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。	○ICT（iPadや連絡アプリtetoru等）の利活用を進め、連携の強化や業務改善につなげた。また、本校の生徒の頑張りや学校の様子の積極的な発信にもつながった。 ○家庭や地域の理解が得られ、コロナ禍前の状況に戻し、総合的な学習の時間の「体験活動」等、教育活動の充実を図ることができた。 ○年間を通した17時下校等、保護者の理解も得ながら働き方改革を意識して改善を進めていくことができた。 △学校評価アンケート、網野学園評価を分析し、今後の学校経営に生かす。 △さらに、保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に意識して取り組む。
次年度に向けた改善の方向性	・第２期「未来を拓く学校づくり」推進事業最終年の取組を学園一体で進めるとともに、本校の学校力の向上につなげる。 ・非認知能力の育成を研究の柱にした授業づくり、授業の改善、そして教育活動の推進を図る。 ・各関係諸機関との連携・協働を通して、生徒の自己肯定感の醸成、学校不適応や不登校の未然防止、早期対応、居場所づくりに取り組む。 ・教職員の働き方改革を推進しながらも、教育の質の向上を図る。			

（別紙様式１）

令 和 ５ 年 度　学 校 評 価　自 己 評 価 報 告

学校名〔　京丹後市立丹後中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○確かな学力の育成とわかる授業づくりのための不断の工夫改善 ○豊かな心と健康な体をはぐくむ教育の充実 ○進路指導の充実 ○信頼される学校づくり ○保幼小中一貫教育の充実の推進による教育活動の充実	「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活が送れるとともに、学習、部活動、様々な行事等で力を発揮した。仲間を思いやる校風もしっかりしたものとなってきた。さらに、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感を高め、目的達成に希望をもって向かい、学校生活で共に協力し、高め合い、積極的に取り組む力をつけさせたい。	開校10年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする。 ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒が自らの可能性に様々な機会を捉えて挑戦することを促す。 ○それぞれの教育活動（学習・行事・取組等々）のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。 ・ＧＩＧＡスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。	・全ての教科でタブレットなどＩＣＴ機器の活用のスキルを高め、生徒指導上の実践上の４つの視点を生かした授業改善を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・発達段階に応じた指導目標に基づき、指導と評価の一体化した取組を、ＩＣＴ活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・通年のドリル学習の一層の内容充実を図ることと、授業での学びとタブレットを活用した反転学習（家庭学習）を関連付け、基礎学力の定着を図る。	○タブレット活用では、教科授業に限らず、生徒会の議案書や選挙公報などのペーパーレス化、タブレットの持ち帰り学習など、生徒の自己有用感や共感的態度の育成につながった。 ○中学卒業までの10年間の各発達期の指導目標を学園で共有し、育成する資質能力をはっきりとさせ、授業内でのＩＣＴ活用による評価材料の蓄積を行うなど、指導と評価の一体化が進んだ。 ○ドリル学習を５教科とし、タブレット内の学習アプリを活用し、基礎基本問題の繰り返しと家庭学習課題とを関連づけ、定着が図れた。 △予習となる学習への働きかけと指導は不足した。
	生徒指導	・配慮を要する生徒の背景を多面的にとらえ、いじめの防止対策の充実や不登校生徒に対する学びの保障に努める。 ・育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。	・業間指導における生徒への寄り添い指導や教育相談月間などを全教職員で丁寧に行い、生徒との信頼関係づくりを進めるとともに、個別最適な学習環境を整備していく。いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。 ・「丹後学」等を活用した生徒の協働的な活動の場の充実を図り、未来の担い手として「将来の社会的自立」に向けたキャリア教育を進める。	○生徒へ全教職員で業間の会話と指導を日常的に行い、生徒にとっての安心安全な学校生活を生み出している。いじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会を毎週実施し、指導の方向性を全教員へ発信するなど、学校全体で指導にあたった。学期ごとの全教員による「相談タイム」やいじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につなげた。 ○学習発表会の開催や生徒総会など異年齢の意見や決意の交流の機会を設定し、生徒の視野を広げる活動を進めた。

	健康（体育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育て、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の確立に向けて、丹後学園全体で指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・新たな価値を生み出すことへの挑戦を続け、体育系・文化系部活動にかかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（ＮＨＤ）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全、安心な学校生活のために、基本的な感染症予防を徹底し、指導にあたる。	○各部活動の大会、文化的な発表や作品の出展等、限られた時間を大切にして前向きに取り組む姿勢が生まれてきた。結果、上位入賞を果たす部活や、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。 ○丹後学園ＰＴＡ・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（ＮＨＤ）や登下校指導を計画通り実施できた。子育て教育講演会を行い、子育てに関する学習できる場が設定できた。 △重要な課題として、子どもたちを取りまくＳＮＳに関わる指導があげられる。丹後学園「情報モラル指導モデルカリキュラム」を活用した系統的な指導を充実させていく必要がある。感染症予防対策は概ね達成できたが、基本的な感染症予防対策は継続が必要である。
	開かれた学校づくり	・保護者、地域への学校公開等を計画的に行い、地域と共にある学校教育を目指す。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・様々な教育活動の参観を保護者や丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。 ・「丹後学」などで丹後を元気にする提言をテーマに探究を進め、地域の取組への積極的な参加を行い、学校だより等の地域回覧・全戸配布や、学校ＨＰへの掲載を通じて、学校教育の充実と地域の活性化の両方を目指した啓発を行う。 ・地域学校協働本部等を活用し、支援ボランティアの支援を積極的に活用する。	△学校や学園の行事や取組の広報について、学校ＨＰでの発信が不足した。しかし、丹後学園運営協議会の委員や保護者には計画どおり案内し、可能な範囲での参観はいただいた。学校での生徒の頑張りを励ましていただける環境づくりが一定できた。 ○２学年については、地域へ出向いての体験学習を実施した。総合の学習発表会も学年ごとに別日で開催し、探究学習の成果の発信ができた。学校ＨＰから学校だよりや学園だよりなどでの行事内容の発信に努めることができた。 △学校支援ボランティアの方々に継続して活用できるよう努めていきたい。今年度は読み聞かせが実施できた。全体のボランティア支援の活用は不十分であった。
	特別支援教育	・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人一人の特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・配慮を要する生徒の背景を多面的にとらえ、個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、関係機関との連携を積極的に行い、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても全教職員で課題共有を大切にし、定期的に校内委員会を開催するなど、組織的な支援を行う。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研修や学園研修会などの充実を図る。また、切れ目なく学ぶことができる教育を進め、子どもの自立へ向けた適切な支援により認知能力と非認知能力の一体的な育成を目指す。	○個別の指導計画・教育支援計画を年度当初に作成した。その計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、個々の課題をすべての教員が共有し、指導や支援を行うことができた。また、日常的に小学校との連携を行い、個々の状況を交流し支援に活かした。またＳＳＷを定期的に活用し、生徒の見立てについて専門的な視点から助言をいただいた。校内スクールカウンセラーからは丹後学園教育相談研修会や校内委員会で講話を実施し、教職員の指導充実に対する学習を深めることができた。 ○夏の丹後学園夏季全体研修会では、大学教授による講演「教師のための非認知能力の育て方」を聴き、教職員の学びの場を設定した。また、個々の生徒の良さや課題を共有し、適切な支援につながる連携ができた。 △関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導を一層進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	・学園共通学習指導の重点「主体的・対話的な深い学び」につながる授業づくりを充実させ、「子どもの主体的な学びの変容」を重点とした研究を進めていく。（教師の授業改善を推進し、子どもの探究的な学びを目指す） ・活発な特別活動を重視し、行事・部活動での子どもの活動を支援できる指導体制を整え、生徒がどんなことにも「挑戦」しようとする意欲と行動力を育成する。 ・生徒ひとりひとりに寄り添う指導を組織的に行い、不安を抱えている生徒や不登校生徒が学校に来やすい環境整備と指導体制を整える。			

（別紙様式１）

令 和 ５ 年 度　学 校 評 価　自 己 評 価 報 告

学校名〔　京丹後市立弥栄中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築くとともに、生徒・地域の実態をよくつかみ、学校の活性化に全力を注ぐ。 2　主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3　基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4　知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。 5　未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。	「未来の担い手育成プログラム」「京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会」の取組みによって、授業の中に課題解決型学習を取り入れるなど、指導方法の工夫改善の取組みが進み、自分の考えや思いを伝えることができる生徒が増えた。また、ＩＣＴ機器の活用や教え合い学習等の取組み等で、生徒の学習意欲や基礎学力の向上が見られた。しかし、学習に対する不安や、家庭環境等の課題から不安定になる等の生徒もいる。個人面談や業間の意図的な生徒との関わりによる信頼関係の構築、ＳＣやＳＳＷ等の専門家の助言に基づく適切な対応や指導を継続的に行う必要がある。	1　生徒と接する中での見取りを的確に行い、良い点・課題点を把握・共有し、指導に生かす。 2　生徒の指導・支援について、保護者と密に連携することで、保護者や地域の実態を把握する。 3　教職員の人権意識の高揚を追求し、人権尊重を土台とした生徒指導・支援の充実を図る。 4　確かな単元構想に基づく授業づくりを進め、基礎基本の定着と、主体的・対話的で深い学びが授業・評価・家庭学習の連動のもと推進できるようにする。 5　研修（特に学習指導、生徒指導、学級経営、特別支援教育、人権教育、道徳教育）や実践を通した学校全体の指導力向上に取り組む。 6　教職員の協力体制を構築し、人材育成を図る。

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり	・タブレット端末等、ＩＣＴ機器の効果的な活用 ・各教科における課題解決型学習の推進 ・教え合い学習、ドリル学習実施による基礎基本の定着及び学習に向かう雰囲気の醸成 ・学園や校内の目標を踏まえた授業研究会による指導方法の工夫改善	○ＥＬＳＡなどの有益なアプリを活用した授業改善が進み、各教科における授業研究の機運が醸成された。 ○ドリル学習を日々積み上げたり、教え合い学習で生徒同士の教え合いを仕掛けたりすることで主体的に学習に向かう雰囲気作りができた。 △管理職が各教科の授業を参観し、個別に事後研究会を行うことはしたが、授業改善に直結する研究会の実施が不十分な状況である。課題解決型学習の要素も取り入れながら、生徒がより主体的に学び、学力を定着させるための授業改善を今後も追求していく必要がある。
	生徒指導	・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応 ・生徒指導の実践上の視点を生かした実践の推進と自尊感情の醸成	・生徒指導部会、いじめ防止対策委員会、教育相談部会等における生徒の実態把握と分析 ・組織的で丁寧な対応につながる指導方針立てと実践 ・教育活動全体、特に個別面談を重視した生徒との信頼関係構築 ・各種アンケートや感想を活用した実態把握と早期発見、早期対応 ・自他が尊重され、安心できる集団づくり	○週に一度ではあったが、部会における実態把握と分析、次の手立ての検討など、十分に協議し、学校全体の取組として反映させることができた。 ○定期の二者面談や日々の個別生徒への語りかけの中で、生徒の理解と指導・支援の言葉かけができ、信頼関係が構築された。 △いじめアンケートで得られた情報に係る指導展開に不十分な点があった。教職員の捉えの精度を高くすることと、組織としての連携を見直す必要がある。

	健康（体育)・安全	・基本的生活習慣の確立 ・健康・安全教育の推進	・アンケートや面談による実態把握と保健・体育の指導による体力づくりと基本的生活習慣確立 ・保健分野（薬物、性、感染症予防等）及び安全分野（生活安全・交通安全・災害安全）の指導の充実による自他の健康安全に係る自律的態度の育成	○年間を通じて、健康安全や保健に関する指導を充実させることができた。 ○外部講師による講話、外部団体から借用した教具などを用いて効果的な指導が展開できた。 △安全分野に係る指導について、より現実味のある内容として企画できたが、生徒への指導の前に教職員の意識や知識のアップデートを図ることが必要である。
	人権教育	・教職員の人権意識の高揚 ・一人一人を大切にする教育の推進 ・確かな人権感覚を育てる人権学習の推進	・人権に関する校内研修における内容面の充実 ・生徒一人一人の良さを把握し、適宜伝えることによる包み込まれている感覚の醸成 ・人権学習の実施における指導内容の充実及び事前研修の充実	○校内研修において、人権教育に関する情報を教職員間で確認することができ、日々の人権教育の充実につなげることができた。 △人権学習について、生徒の現状も踏まえたものを展開しているが、より生徒が考えを深め自分事として捉えられるように指導内容を充実させる必要がある。
	特別支援教育	・特別支援教育に関する専門的な知識と指導法の共有と指導・支援の展開 ・特別支援教育に関する組織体制の充実	・研修での学び、専門家の助言等の共有と生徒への適切な指導・支援内容の展開 ・個々の生徒への適した指導・支援のための特別支援教育コーディネーター及び特別教育支援部と学年の連携体制構築	○支援が必要な生徒に関する情報共有、支援の在り方に係る研修を通し、教職員の学びを深めることができた。 △個々の生徒を適切に見取り、最適で必要な支援を行うための教職員のアセスメント能力を高めるため、さらに校内研修等を充実させる必要がある。
次年度に向けた改善の方向性		1　小規模の生徒数、教職員数の強みを見出し、それを生かすことのできる教育活動を推進する。 2　１園１小１中の学園体制となることを踏まえ、生徒のよりよい人間関係づくりに焦点を当てた生徒指導、特別活動、人権教育、道徳教育の取組を充実させるとともに、学園としての実践研究を推進する。 3　個々の生徒の状況を面談等様々な機会を介して把握し、個別の適切な支援が進められるよう、教職員間の情報共有を確実に行い、組織的な動きに基づいた生徒の個性と能力の尊重に努める。また、このように取り組める教職員集団を目指した研修を重ね、人材育成に努める。		

（別紙様式１）

令 和 ５ 年 度　学 校 評 価　自 己 評 価 報 告

学校名〔　京丹後市立久美浜中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
＜久美浜学園＞　指導の重点：学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) (3) 家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 １　非認知能力の伸長と、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 ２　好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ３　不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善 ４　「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 ５　アフターコロナにおける「新しい教育の創造」	○主体的に行動でき、活発で自分の言葉で話せる生徒が多く、学習面においても落ち着いた雰囲気で取り組むことができた。 ○学習指導要領の趣旨や生徒指導提要改訂に伴う校則の見直しなどについて、生徒や保護者に丁寧に説明するとともに教員の研修を充実させた。ＩＣＴを活用した授業実践も大きく前進し、授業研究会も盛んに行われた。 ○効率的に方針立てするための体制づくりに努め、組織で対応にあたるとともに、要対協をはじめとする関係機関と連携して解決にあたることができた。 ○ジェンダー平等や LGBTQ に関する取組や指導を展開し、一人ひとりの生徒に寄り添った人権教育が充実した。 ○地元高等学校との連携を強化し、高校の教員や卒業生による講話や交流事業を充実させたことにより、キャリア教育に関する関心が高まり、近隣公立高等学校への進学率も高まった。 △別室指導が充実し、改善傾向の生徒も増加した一方で、コロナ関連による欠席や出停、不登校生徒など、学校で授業を受けられない生徒が増加し、学習の未定着や二極化など、課題を残した。様々な手法による学習機会の提供の整備が急務である。 △徐々に諸取組を正常化させることができたが、各校園所における実態が異なり、学園としてのまとまりは十分に回復できなかった。	１　教育活動の重点的方針 (1) 認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業改善の推進 (2) 地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるための戦略的カリキュラムマネジメントの推進 (3) 価値観の変化への対応と多様性へのさらなる寛容性を具現化するための教育活動の精選と新たな生徒指導及び教育相談の充実 ２　職務上の重点的指針 (1) 現行学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのための教員の資質向上 ・評価方法や授業展開等における研修の充実 ・「開かれた教育課程」を目指した地域資源や丹後学を活用した授業づくりの推進 (2) 生徒指導提要の趣旨に沿った生徒理解の推進と組織体制の整備 ・発達支持的生徒指導の具体に関する研修の充実新たな不登校生徒へのアプローチとＩＣＴの活用 ・校則改定やジェンダーフリー委員会を軸とした取組 (3) 教職員の働き方改革推進及び服務規律の徹底 ・勤務や勤務時間に対する意識改革 ・通信機器や個人情報に係る危機意識の向上 ・高い創造力をもつ教師集団づくり

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	◇認知能力と非認知能力を一体的に伸長させる学力向上・授業づくり・ＩＣＴ活用の取組 (1) 個別指導の充実と学習機会の場の提供 (2) 授業とつなげる家庭学習の工夫	◇文部科学省リーディングＤＸスクール事業を活用したＩＣＴ活用の研修充実と学力向上の取組推進 ◇タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実 ◇学習支援加配を主軸とした学力向上の全校展開 ・個別最適学習の推進 ・特支学級・別室生徒を含む学習面の課題をもつ全ての生徒への責任あるフォローアップと進路実現 ・効果性の高い詳細な学力分析と方策の立案、教科を越えた具体的授業改善と授業研究 ◇定期テスト改革推進と定期テストのみに依拠しない単元や定着を重視した評価の場の設定 ・各教科のシラバスと評価方法の提示 ◇グローバル人材の育成と英語力の向上	○学校のデジタル改革を目指した指定事業を活用し、多くの成果発表会、研修会、公開授業等を実施した。ＩＣＴを効果的に活用した授業づくりの取組の活性化により、教員一人ひとりの意識と授業力が向上したとともに、生徒の協働的な学びや学力向上の面で大きな成果が見られた。 ○タブレットの常時持ち帰り、「エルサスピーク」などのアプリも充実したことから、授業と家庭学習をＩＣＴで効果的に繋ぐことができた。 ○市主催のオンライン留学やチームラボ等にも積極的に参加する生徒が多く、英語習得やグローバル人材育成プログラムに対する興味関心が高い。海外派遣事業にも多く参加する予定。 △今後は、不登校を含むすべての生徒一人ひとりを伸ばすための個別最適な学習の研究や推進を重点的に展開していく必要がある。

	生徒指導	◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた取組 (1) 生徒指導の機能化 ・不適応生徒の学習指導の充実 (2) 主体的活動の活性化 ・校則の主体的検討、SDGs の取組のさらなる活性化	◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の一体的展開 ◇別室機能のさらなる強化と学習補充の充実 ◇生徒会活動・学級活動の充実と継続 ◇討議・話合い活動の場の設定 ◇SDGs の取組継続と丹後学・横断的学習の展開	△コロナやインフルエンザ等による欠席や出停、不登校生徒など、教室で授業を受けられない生徒が増加し、学習の定着、二極化に課題を残した。 △アフターコロナにおけるコミュニケーション力の回復が課題。様々な主体的活動の活性化が必要である。 ○SDGs の取組をはじめとする生徒会活動がさらに活性化した。取組は久美浜学園全体に広がり、環境関連フォーラムでの発表等、町外にも積極的に発信することができ、生徒の自信や自己肯定感の高まりに繋がった。
	健康（体育)・安全	◇実効性ある危機管理マニュアルの確立、避難訓練等の充実等	◇緊急時対応訓練の実施（土砂災害、火災、不審者、地震） ◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底 ◇健康・安全に関する教育の充実	○学校内での感染防止に努め、予定していた様々な諸取組や行事を実施することができた。 ○危機対応マニュアルを踏まえた火災や地震等の避難訓練を実施するとともに、京丹後警察を招いて不審者対応訓練を実施した。
	特別支援教育	◇校内指導体制の機能化 ◇通常学級における特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実 ◇合理的配慮の継続的検討と組織的対応	◇特別支援教育の視点で展開する全教育活動の展開 ◇特支アセスメント・個別の指導計画・個別の支援計画・小中連携資料・教育相談個票の日常的活用と検証、全教員での共有化 ◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○ユニバーサルデザインと特別支援教育の視点で全教育活動を捉えた実践が進んだ。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、組織で適正な見立てを行い、不適応傾向の生徒の学校での生活環境を整えることにより、改善を図ることができた。 ○よさのうみ支援センターや各病院・クリニックなど、多くの関係機関との継続的連携により、専門家の助言を生かした根拠ある見立てと効果的な指導が可能になった。
	開かれた学校づくり	◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化 ◇学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開	◇丹後学の充実…丹後学・ふるさと学習・体験学習の一体的展開 ◇学校運営協議会・地域学校協働活動と学校教育活動の実効性ある一体化 ◇学校運営協議会を窓口にした地域人材の活用…講話学習・授業への積極的活用 ◇学校支援ボランティアの積極的活用・拡充 ◇同窓会等と連携したふるさとと母校を愛する心情を育てる取組の推進 ◇地元高等学校との連携共同事業の活性化	○コロナが一定収束し、体験活動や職場体験活動を計画通り実施することができた。 ○キャリア形成の視点で、教科授業や「総合的な学習の時間」、特別活動を関連付けしながら展開し、ふるさとや地域振興、進路や将来について考える機会を多くもつことができた。 ○同窓会との共催により「くみちゅうキャリアフェスティバル 2023」を開催するともに、遠隔交流事業など緑風高久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地元や地元の学校に対する意識が高まった。
次年度に向けた改善の方向性	◇生徒指導提要における授業づくりの４つの視点『①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成』に沿った授業改善を進め、「わかった」「たのしい」と思える学級や授業づくりを進めていく。 ◇増加した学校不登校出現率を改善していくため、学習や人間関係、家庭環境や生活習慣などについて、一人ひとりに対しての丁寧な指導・支援を展開し自立を促していく。 ◇ICT をさらに活用し、個別指導・家庭学習などの充実、学習の場の提供などを促進し、個別最適化された望ましい指導を組織で展開できるよう、環境整備、研修等を充実させる。 ◇学園内の小小間の学力格差是正を支援し、中学校入学時や各期の接続をより円滑に行えるよう、中学校がリーダーシップを取り一体感のある学園経営を行っていく。			